

## 怒れる神の御手の中にある罪人

※なお、原文にはありませんが、読みやすいように、赤字で聖書の御言葉を追記したり、使用されている単語や表現の補足説明を行っていますので、ご了承下さい。

ジョナサン・エドワーズ師

1741年7月8日、エンフィールドでの説教。

大覚醒の時に多くの聴衆に驚くべき印象を与えた。

主題：「彼らの足がよろめく」申命記32：35

この節には、邪悪で不信仰なイスラエル人に対する神の復讐が描かれている。彼らは、神の目に見える民であり、恵みの下に生きた。神が様々な恵みの御業をなさったにもかかわらず、（申命記32:28にあるとおり（「まことに彼らは思慮の欠けた国民、彼らのうちに英知はない。」））、彼らは思慮に欠け、理解もないままであった。天から様々な育みを受けたが、彼らは苦く毒のある実を結んだ。私が本文に選んだ「彼らの足がよろめく」という表現は、この邪悪なイスラエル人にもたらされた罰と滅亡に関して、次の事柄を暗示しているように思われる。

1. 滑りやすい場所に立って歩く者が常に転倒の危険にさらされているように、イスラエルの民も常に滅びの危険にさらされている。このことは、彼らの足が滑ることによって、滅びが彼らを襲うことを暗示している。同じことが詩篇に描写されている。「まことにあなたは彼らを滑りやすい所に置き、彼らを滅びに突き落とされます（詩篇73:18）」
2. それは、彼らが常に予期せぬ突然の滅びにさらされていたことを意味する。滑りやすい場所を歩く者は常に倒れやすく、次の瞬間に立っているか倒れているかを、一瞬たりとも予測できない。その者が倒れるときは、警告なしに瞬時に倒れる。そのことは、次の節に描写されている。「彼らは瞬く間に滅ぼされ、突然の恐怖で滅ぼし尽くされます（詩篇73:19）」
3. もうひとつ暗示されているのは、他人の手によって投げ落とされるのではなく、自ら倒れる可能性があるということだ。滑りやすい地面に立ったり歩いたりする者が（倒れるには）、自分の体重以外に何も必要としないのと同じである。
4. 彼らがこれまでに倒れておらず、今も倒れていないのは、神の定められた時が来ているからにはほかならない。なぜなら、その時が来れば、彼らの足は滑るからである。その時、彼らは自らの重さによって傾くため、倒れるままにされる。神はこれ以上、滑りやすい場所で彼らを支えようとはされず、彼が倒れるままにされる。そして、まさにその瞬間、彼らは滅びに至る。このような滑りやすく傾斜のある場所に立つ者、つまり、穴の縁に立つ者は、一人で立っていることができず、手を放すとすぐに倒れて、失われてしまう。

さて、私が主張したいのは、次の言葉から考えられることである。「悪人を地獄から救い

出すことは、まさに神の喜び以外の何ものでない」。神の喜びとは、神の主権的な喜び、すなわち、いかなる義務にも拘束されず、いかなる困難にも妨げられない、神の一方な意志のことである。もし神の意志以外の何ものでないのであれば、邪悪な人間は一瞬たりとも救われることはないであろう。この見解が真理であることは、次の考察によって明らかになるであろう。

1. 神には、邪悪な人間をいつでも地獄に投げ込む力がある。神が立ち上がられるなら、人の手は強くあり得ない。どんなに強い者でも、神に逆らう力はなく、その手から救い出すこともできない。神は悪人を地獄に落とすことができになるばかりか、いともたやすくお出来になる。地上の君主が反逆者を服従させるのに大変な苦勞をすることがあるが、反逆者は自らを守る手段を見つけ、従者の数によって自らを強くしている。しかし、神はそうではない。神の力から身を守る砦などはない。手と手が結ばれ、神の敵の大群が結集し、団結しても、それらは容易く粉碎される。敵は、つむじ風の前の軽いもみ殻の山のようにであり、むさぼる炎の前の乾いた刈り株の山のようなのである。大地を這う虫を踏みつぶして砕くことは容易である。それゆえ、如何なるものであっても、ぶら下がっている細い糸を切ったり刺したりするのは容易いことである。このように、神がお望みになるなら、敵を地獄に突き落とすことは容易い。私たちは、いったい何者なのだろうか。叱責によって大地が震え、岩が投げ落とされる方の御前に立とうと考えると。

2. 彼らは、地獄に投げ込まれるに値する。だから、神の正義は決して邪魔にならないし、神がいつでも権力を行使して彼らを滅ぼすことに何の異議も唱えない。それどころか、正義は彼らの罪に対する無限の罰を声高に求める。神の正義は、ソドムのようなブドウを実らせる木についてこう言う。「切り倒してしまいなさい。何のために土地まで無駄にしているのか」(ルカ 13:7)。神の正義の剣は、常に彼らの頭上に振り下ろされている。それを押しとどめるのは、一方的な憐れみの御手と神のご意志にほかならない。

3. 彼らは、すでに地獄行きの宣告を受けている。地獄に落とされるのは当然であるばかりでなく、神が人類との間に定めた永遠不変の正義のルールである神の律法の判決が彼らに対して下され、彼らに対して立ちはだかるのである。それは、彼らがすでに地獄に繋がれているためだ。「信じない者はすでにさばかれている(ヨハネ 3:18)」。それゆえ、改心していない者は、みな当然、自分の居場所である地獄に属している。それゆえ、彼は「あなたがたは下から来た者です」と言われ(ヨハネ 8:23)、そこに繋がれている。そこは正義と神の言葉と不変の律法の判決が彼に割り当てる場所なのである。

4. 彼らは今、地獄の苦しみに表されているのとまったく同じ神の御怒りの対象なのである。彼らとその都度、地獄に堕ちない理由は、彼らを支配しておられる神が彼らにあまり怒っておられないからではない。今、地獄で苦しめられている多くの惨めな人間たちが、そこで神の怒りの激しさを感じ、それに耐えているのと同じである。そう。神は、いま地上にいる多くの者たちに怒っておられる。そう。間違いない。神は、いま地獄の炎の中にいる多くの者たちよりも、今この聴衆の中にいる多くの者たち、また、地上にいる多くの者たち、安穩としている者たちに対して激しく怒っておられる。神が手を放し、彼らを断ち切らないのは、神が彼らの邪悪な行いに気づかず、それを恨んでいないからではない。

彼らがそのように想像しているとしても、神はまったく彼らのような存在ではない。神の怒りは彼らに対して燃え上がり、彼らの天罰はまどろまない。穴は用意され、炎は準備され、炉はすでに熱くなっており、彼らを受け入れる準備ができています。光り輝く剣は研ぎ澄まされ、彼らの上に置かれ、穴は彼らの下で口を開けている。

5. 神が許すなら、悪魔はいつでも彼らの上に倒れ込み、彼らを自分のものとして奪い取る用意ができています。彼らは悪魔のものである。悪魔は彼らの魂を所有し、支配下に置いているのだ。ルカ 11:21（「強い者が十分に武装して自分の屋敷を守っているときは、その財産は無事です。」）にあるように、聖書は彼らを悪魔の所有物として表現している。悪魔たちは彼らを見張っている。彼らはいつも彼らの右手にいる。貪欲な飢えたライオンのように獲物を見て、それを手に入れようと彼らを待ち構えているが、今は差し控えている。もし神が、彼らを抑えておられる御手をおろされたなら、彼らはたちまち哀れな魂に襲いかかるだろう。古いヘビが、彼らを狙っている。地獄は口を大きく開けて彼らを迎え入れる。もし神がそれを許すなら、彼らは直ちに飲み込まれ、失われてしまうだろう。

6. 邪悪な人間の魂には、地獄の原理が支配しており、もし神の制止がなければ、やがて地獄の炎となって燃え上がるだろう。肉欲的な人間の本性そのものに、地獄の苦しみの土台が築かれている。地獄の火の種となる腐敗した原理が存在し、その中に権力が君臨し、それを完全に所有している。これらの原理は活動的で強力であり、その性質は非常に暴力的である。もし神の抑制の御手が彼らの上になかったなら、彼らはすぐに暴れ出し、同じ墮落、同じ敵意が、呪われた魂の心の中にあるのと同じように燃え上がり、彼らの中にあるのと同じ苦しみを生むだろう。聖書では、悪人の魂は、荒れ狂う海に例えられている、イザヤ 57:20。今のところ、神はその強大な力によって、荒れ狂う海の荒波と同じように、彼らの悪を抑えておられる。「汝はここまで来てよいが、これ以上は来てはならない」と。しかし、もし神がその抑制の力を取り除くなら、罪はすぐにすべてを押し流すだろう。罪は魂の破滅であり、魂の惨状である。罪はその本質において破壊的だ。もし神がそれを抑制することなく放置するなら、罪は魂を完全に悲惨な状態にするだろう。罪はそうするために、罪以外の何ものも必要としないだろう。人の心の腐敗は、その激しきにおいて節度がなく、無制限である。邪悪な人間が地上で生活している限り、罪は神の抑制によって抑え込まれた火のようだ。しかし、もし罪が解き放たれたなら、自然の摂理に火をつけることになる。そして、もし罪が抑えられなければ、魂はたちまち火のかまど、あるいは火と硫黄の炉と化すだろう。

7. 邪悪な人間にとって、目に見える死の手段が手元にないことは、ひとときの安心にもならない。生まれながらの人間にとって、自分が今健康で、事故があっても今すぐに世を去る可能性が考えられず、自分の境遇においても目に見える危険がないということは、何の安心にもならない。古今東西の多種多様な経験があるからといって、それは人が永遠（の滅び）への瀬戸際において、次の一步を踏み出すことで別の世界に行ってしまうわけではないことを証明する証拠にはならない。この世から突然去って行く人にとっては、目に見えず、思いも寄らない方法や手段が無数にあって想像もつかない。改心していない人間は、地獄の穴を覆っている腐った覆いの上を歩いているのだ。この覆いには、自分の体重に耐えられないほど脆弱な箇所が無数にあるが、その箇所は目には見えない。死という矢

は、真昼でも目に見えない。どんなに鋭くても、それを見分けることはできない。神は、邪悪な人間をこの世から連れ出して地獄に送るため、数え切れないほど多くの方法をもっておられる。悪人をも滅ぼすために神が奇跡を起こしたり、通常の摂理から外れたりする必要があったと思わせるものは何もない。罪人がこの世から去る手段はすべて神の御手にあり、普遍的かつ絶対的に神の力と決断に従う。罪人がいつ地獄に墮ちるかは完全に神の意志にかかっており、何かの手段を使うかどうか、すべて神の意思次第である。

8. 生まれながらの人間が自分の生命を守るために慎重で注意深い行動をとったり、他人の生命を守るために注意深い行動をとったりしても、一刻の猶予もない。このことは、神の摂理と普遍的な経験も証言している。もしそうでなければ、世の中の賢くて政治的な人々とその他の人々との間に、早死や予期せぬ死に対する責任に関して、何らかの違いが見られるはずである。「事実、知恵のある者も愚かな者も、いつまでも記憶されることはない。日がたつと、一切は忘れられてしまう。なぜ、知恵のある者は愚かな者とともに死ぬのか(伝道者2:16.)。』

9. 地獄から逃れようとする邪悪な人間のあらゆる苦心や工夫は、キリストを拒み続け、邪悪な人間のままでいる間、彼らを地獄から一瞬たりとも守ることはできない。生まれながらの人はほとんどすべて、地獄の話を知ると自分は地獄から逃れられると自惚れ、自分の安全のために自分自身を頼りにし、自分がしてきたこと、今していること、しようと思っていることに自惚れる。人は皆、自分がどうすれば天罰を免れることができるか、自分の心の中にある事柄を並べ立て、自分のためにうまく計画し、その計画が失敗することはないだろうと自惚れる。救われる者はわずかであり、これまで死んだ者の大部分は地獄に墮ちたと聞いている。彼は、あの苦しみの場所に来るつもりはなく、自分の心の中で、失敗しないように細心の注意を払い、自分自身のために問題を解決するつもりだと言う。

しかし、愚かな人の子らは、自分の計略に惑わされ、自分の力と知恵を確信して、惨めな思いをする。彼らが信頼しているのは、単なる影でしかない。これまで同じ恵みの下に生きていて、今は死んでいる人々の大部分は、間違いなく地獄に落ちている。それは、彼らが今生きている人たちほど賢くなかったからではない。また、彼らが自分たちの逃亡を確かなものとするために、自分たちのことをよく考えていなかったからでもない。仮に私たちが彼らと話をし、彼らが生きているとき、そして地獄についてよく耳にしていたとき、不幸の対象になることを予期していたかどうか、一人ずつ尋ねてみたとしても。私たちは疑いもせず、一人ひとりにこう答えていたはずだ。「いや、ここに来るつもりはなかった。私は自分の心の中で、別のことを計画していた。私は自分がうまくやれると思った。しかし、予期せぬ結果が私に降りかかってきた。当時は、あのような方法で探し求めていたわけではない。それは盗人のようにやって来た。死は私を出し抜いた。神の怒りは、私にとって余りにも早くやって来た。ああ、私の呪われた愚かさよ！私は自分にお世辞を言い、この先どうしようかとむなしい夢を見て自分を喜ばせていた。平和で安全だと言っていたとき、突然、破滅が私を襲った」と。

10. 生まれながらの人間を一人も一瞬たりとも地獄から逃がさないという約束を、神は自らに課していない。神は確かに、永遠のいのちについても、永遠の死からの解放や保全に

ついても、いかなる約束もしていない。しかし、恵みの契約に含まれているのは、キリストにおいて与えられる約束であり、そのキリストにおいて、すべての約束は「しかり」であり、アーメンである。しかし、契約の子でない者、約束を何一つ信じない者、契約の仲介者に何の関心もない者が、恵みの契約に何の関心も持っていないのは確かである。

だから、生まれながらの人が熱心に求め、たたくことに対してなされる約束について、ある人たちが何を想像し、偽ってきたとしても、生まれながらの人が宗教的にどのような苦勞をしようと、どのような祈りを捧げようと、その人がキリストを信じるまでは永遠の滅びから一瞬たりとも遠ざける義務が神にはないことは明白で明らかである。

こうして、生まれながらの人は神の御手に握られ、地獄の穴の上にいる。彼らは火刑台行きにふさわしく、すでにその宣告を受けている。神はひどく挑発され、その怒りは、地獄で実際に神の怒りの激しさを受けている者たちと同じくらい大きい。その怒りを鎮めたり和らげたりするために、まったく何もしていない。神は、彼らを一瞬でも支えるという約束に少しも縛られることはない。悪魔は彼らを待ち伏せし、地獄は彼らを待ち構えている。炎は彼らの周りに集まって燃え上がり、彼らを飲み込もうとしている。彼らは、どのような調停者にも関心がなく、手の届くところに彼らにとっての安心となるような手段もない。要するに、彼らには逃げ場もなければ、抛り所もないのだ。彼らを辛うじて保っているのは、憤怒に燃えた神の一方的な意志と、契約も義務もない寛容さだけなのだ。

## 適用

この恐ろしい主題は、この聴衆の中にいる未信者を目覚めさせるために用いられるかもしれない。あなたがたが聞いたことは、キリストから離れているあなたがたすべてに当てはまる。不幸の世界、燃えさかる硫黄の湖が、あなたの下に広がっている。そこには神の怒りの炎が燃え盛る恐ろしい穴があり、地獄の口が大きく開いている。あなたと地獄の間には空気以外に何も無い。あなたを支えているのは、神の力と喜びだけなのだ。

あなたはおそらくこのことに気づいていない。あなたは自分が地獄から守られていることに気づくが、そこに神の御手があることには気づかない。しかし、それ以外のこと、たとえば体質の良し悪しや、自分の命への気遣い、自分の身を守るために使う手段などにも目を向けてほしい。しかし、これらのことは無きに等しい。もし神が御手を退かれるなら、それらのことはあなたが倒れないようにするために何の役にも立たないからだ。

あなたの邪悪さは、あなたをまるで鉛のように重くし、大きな重さと圧力で地獄に向かって下降させる。もし神があなたから手を放すなら、あなたはたちまち沈み、底なしの溝へと急速に下降し、突っ込むだろう。あなたの健康な体質も、あなた自身の注意深さも、賢明さも、最善の策略も、あなたのすべての正義も、あなたを支え、地獄から救い出す影響力は、落下する岩をクモの巣が止めるほどの影響力もないだろう。もし神の主権的な喜びがなかったら、大地は一瞬たりともあなたを背負うことはなかっただろう。あなたは大地にとって重荷なのだから。被造物はあなたと共にうめき、被造物はあなたの墮落の束縛に服従させられている。太陽は、罪とサタンに仕えさせるためにあなたに光をもたらすこと

はないし、喜んであなたを照らすこともない。大地は、あなたがたの欲望を満たすために、進んでその実りをもたらすことはなく、また、あなたがたの邪悪な行為が行われる舞台となることもない。あなたが神の敵のために人生を費やしている間、空気はあなたの体内の生命の炎を維持するために、呼吸のために進んであなたに奉仕することはない。神の被造物は善良であり、人が神に仕えるために造られたものである。それ以外の目的には進んで従わず、その性質や目的に真っ向から反する目的に悪用されると嘆く。そして世界は、希望をもってそれを従わせた神の主権的な御手がなければ、あなたがたを吐き出してしまいうだろう。神の怒りの黒雲が今、あなたたちの頭の真上に垂れ込め、恐ろしい嵐に満ち、雷鳴が轟いている。神の主権的な喜びが、今のところ、神の荒い風をくい止めている。もし神の抑制の手がなければ、それはたちまちあなたたちの上に吹き出してしまいうだろう。さもなければ、それは激しく吹き荒れ、あなたたちの破滅はつむじ風のようにやってきて、あなたたちは夏の脱穀場のもみがらのようになってしまいうだろう。

神の怒りは、今のところせき止められた大水のようだ。大水は出口が与えられるまで増水し、水位が高まる。そして、流れが止まっている時間が長ければ長いほど、ひとたび流れが解き放たれたとき、その流れは速くなり、力強くなる。たしかに、あなたがたの悪業に対する裁きは、これまで実行されてこなかった。神の復讐の洪水は、これまで差し控えられてきた。だが、その間にあなたの罪は絶えず増え続け、あなたは日々、より多くの怒りを蓄えている。水位は絶えず上昇し、ますます力強くなる。堰き止められることを望まない水をせき止め、一気に前に進もうとする水をせき止めているのは、ただただ神の喜びにほかならない。もし神が洪水の門から手を離ささえすれば、洪水の門はたちまち開き、神の激しい怒りの洪水が想像を絶する激しさで押し寄せ、全能の力であなたに襲いかかるであろう。あなたの力が今の1万倍であったとしても、いや、**地獄で最も頑強で頑丈な悪魔（※1）**の力の1万倍であったとしても、それに耐え、持ちこたえることはできないだろう。

※1 聖書によると、悪魔は現在「空中の権威を持つ支配者」としてこの地上世界にて活動していることが見て取れることから、この表現は聖書的ではないが、ジョナサン・エドワーズ師は、このメッセージで、全能の神の怒りと力の強大さを示すためにこのように述べていると思われる（エペソ 2:2, 6:11, 12, I ペテロ 5:8, 9 など）。

なお、聖書中で「地獄」または「よみ」と訳される「ハデス（火の池）」は、現在亡くなった不信者（真の神様及びイエス・キリストを救い主として信じなかった人々）が一時的に投げ込まれている場所であり（ルカ 16:19～31 など）、同じく地獄と訳されている「ゲヘナ（火と硫黄の池）」は、世界の終わりに神様からの裁きにより、悪魔、悪霊及びハデスより出された不信者が投げ込まれる場所である（マタイ 25:41, 46, 黙示録 20:10～15 など）。

神の怒りの弓は曲げられ、矢は弦に備えられ、正義はあなたの心で矢を曲げ、弓を張っている。矢があなたの血で酔うのを防いでいるのは約束でも義務でもなく、怒れる神の喜びにほかならない。このように、神の霊が魂に及ぼす強い力によって、心が大きく変わったことのない者たち、新しく生まれ変わり、新しい被造物とされ、罪の中に死んでいた状態から、新しい、まったく未経験の光と命の状態へとよみがえったことのない者たちは皆、

怒れる神の御手の中にいるのである。たとえあなたが、さまざまなことで生活を改め、宗教的な感情を持ち、家庭や戸棚や神の家で宗教の形を保っていたとしても、今この瞬間に永遠の滅びに飲み込まれないでいられるのは、一重に神の喜びにほかならない。今はまだ、あなたが聞いたことの真実に納得していないとしても、やがて、あなたは完全に納得するだろう。あなたたちと同じような境遇から去った者たちは、自分たちがそうであったことを知るだろう。彼らが何も期待していなかったとき、そして平和と安全と言っていたとき、滅びは彼らのほとんどに突然訪れたのである。彼らは今、平和と安全のために頼っていたものが、薄っぺらな空気と空虚な影にすぎなかったことを知る。

地獄の穴の上であなたを握り締めている神は、クモや憎むべき昆虫を火の上で握っているのと同じように、あなたを忌み嫌い、ひどく挑発している。あなたに向けられた神の怒りは火のように燃え上がり、あなたを火の中に投げ込まれる無に等しい者として見ている。神の目は純粹であるため、あなたを見るに堪えない。神の目には、最も憎い毒蛇の何万倍も忌まわしくあなたが映っている。あなたは、頑迷な反逆者が自分の君主にしたこと以上に限りなく神を怒らせた。それでもあなたが火の中に落ちないように瞬間瞬間支えているのは、神の御手にほかならない。昨夜、あなたが地獄に行かなかったこと、目を閉じて眠った後、この世で再び目を覚ますことができたのは、他の何ものにも帰することはできない。そして、朝目覚めてから地獄に落ちなかった理由は、神の御手があなたを支えていたから以外にない。あなたがこの神の家に座り、厳粛な礼拝に出席するあなたの罪深い邪悪な態度によって、神の清らかな目を挑発したにもかかわらず、あなたが地獄に落ちない理由は他に何も無い。そう、今この瞬間、あなたが地獄に落ちない理由は、他に何も無いのだ。

罪人よ！自分が置かれている恐るべき危険について考えてみるがよい。それは大きな怒りの炉であり、広く底なしの穴であり、怒りの火で満ちている。あなたはその神の御手に握られており、神の怒りは地獄にいる多くの呪われた者たちと同じように、あなたに対して掻き立てられ、激昂している。あなたは細い糸にぶら下がっており、神の怒りの炎がその糸に燃え移り、今にも糸を焼き尽くそうとしている。そして、あなたはいかなる調停者にも関心がない。自分自身を救うために拠り所とするものは何もなく、怒りの炎を食い止めるものもなく、ただ自分だけで、これまで自分がしてきたことでもなく、自分にできることでもない。神が一瞬でもあなたを見逃すように仕向けるために、あなたができることは何一つない。それではここで、次のことを考えてみよう。

1. これは誰の怒りか。それは無限の神の怒りである。もしそれが人間の怒りであったなら、たとえそれが最も力ある君主の怒りであったとしても、ほとんど顧みられることはないだろう。王の怒りは非常に恐れられている。特に絶対的君主は、臣民の財産と生命を完全に自分の支配下に置き、自分の意志で処分することができる。「王の恐ろしさは若い獅子がうなるよう。彼を怒らせる者は、代償としていのちを失う」箴言 20:2)。独裁的な君主を大いに怒らせた臣下は、人の技術が発明しうる、あるいは人間の力がもたらしうる究極的な苦痛を受けることになる。しかし、地上の偉大な権力者たちは、威厳と強さを持っていても、またその偉大な恐ろしさを身にまもっていても、偉大で全能なる天地の創り主、また王である方に比べれば、弱く、卑しい塵の虫にすぎない。最も激怒し、怒りを最大限に発揮したときでも、彼らにできることはほんの僅かだ。地上の王たちは皆、神の前では

バッタのようなものであり、無に等しい。彼らの愛も憎しみも軽蔑されるべきである。王の王の怒りは、その威厳が偉大であると同様に、彼らよりも恐ろしい。「わたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺しても、その後はもう何もできない者たちを恐れてはいけません。恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺した後で、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい」(ルカ 12:4-5)。

2. あなたが晒されるのは、神の怒りの激しさである。私たちはしばしば神の怒りについて読んでいる。「主は彼らの仕打ちに应じて報い、はむかう者に憤り、敵に報復し、島々にも報復をされる」(イザヤ 59:18)。「見よ。主は火を伴って進んで来られる。その戦車はつむじ風のような。主は激しい憤りをもって、怒りを下し、火の炎をもって、叱責を下す」(イザヤ 66:15)。そして、他の多くの場所でも。だから、「全能者なる神の激しい憤りのぶどうの踏み場を踏まれるのは、この方である」(黙示録 19:15)」とある。この言葉は非常に恐ろしい。もし「神の憤り」とだけ言われていたのなら、この言葉は限りなく恐ろしいものを暗示していただろう。しかし、そうではなく、「神の激しい憤り」と書かれているのだ。神の怒りだ！エホバ(※2)の激しさ！ああ、それはどんなに恐ろしいことだろう！このような表現にどのような意味が込められているか、誰が口にしたり、想像したりできるだろう！ところが、それは「全能者なる神の激しい憤り」である。その憤りの激しさが、あたかも全能の力をまざまざと見せつけるかのようだ。人が怒りにまかせて力を発揮するように、全能の力が激怒し、発揮されるかのようだ。ああ、その結果はどうなるのだろうか！その苦しみを味わう哀れな虫は、どうなるのだろうか！誰の手が力強いというのか。誰の心が耐えられるというのか。その対象となる哀れな生き物は、恐ろしく、筆舌に尽くしがたく、想像を絶する悲惨の中に深く沈んでゆくに違いない。

※2 聖書中にて、真の神様の御名として記載されている「YHWH」の四つの子音文字である。ユダヤ人はこの神様の名前をみだりに唱えることを恐れていたことから、この単語を「アドナイ」という言葉に言い換えていたところ、本来の読み方が失われてしまったという経緯がある。

なお、「エホバ」という言葉は、「アドナイ」の母音部分と上記の四つの子音文字を組み合わせて後の時代に作られた造語であり、本当に正しい読み方であるのかは疑問があることから、現在日本で訳されている多くの聖書では、太字で「主」という言葉が使われている場合が多い。

ここにいる者たちよ、まだ新生していない状態にとどまっている者たちよ。次のことをよく考えなさい。神がその激しい怒りを実行に移すということは、いかなる憐れみもなしに怒りをもたらすということを意味している。神が、あなたの訴えを極限的なものとして見るとしても、また、神が、あなたの苦しみはあなたの強さとあまりにも不釣り合いだと思ひ、あなたの哀れな魂がひどく押しつぶされ、無限の憂いの中に沈んでいくかのようだと思うとしても、神はあなたを憐れむこともなく、怒りの処刑を見過ごすこともなく、その手を少しも緩めることはない。節度も慈悲もなく、神はその荒々しい風を止めようともしない。神はあなたの幸福を顧みることなく、他のいかなる意味においても、あなたが苦しき過ぎないように気を配ることもない。何事も差し控えることはない。「だから、わた

しも激しい憤りをもって応じる。わたしはあわれみをかけない。わたしは彼らを惜しまない。彼らがわたしの耳に大声で叫んでも、わたしは彼らの言うことを聞かない」（エゼキエル8:18）。（しかし）今、神にはあなたがたを憐れむ用意がある。あなたは今、慈悲を得ようとして叫ぶかもしれない。しかし、ひとたび慈悲の日が過ぎてしまうなら、あなたがたの嘆かわしい、悲痛な叫びや悲鳴は無駄に終わるだろう。あなたがたは完全に失われ、神のもとから捨て去られる。神があなたを悲惨な目に遭わせる以外に道はない。なぜなら、あなたがたは滅びにふさわしい怒りの器となり、この器は怒りで満たされる以外に使われることはないからだ。神は、あなたが神に泣きついても憐れむどころか「笑い、あざ笑う」だけだと書かれている（箴言1:25-26、他）。

偉大なる神の言葉は、なんと恐ろしいことだろう。「わたしはひとりでぶどう踏みをした。諸国の民のうちで、事をともにする者はだれもいなかった。わたしは怒って彼らを踏み、憤って彼らを踏みにじった。彼らの血の滴りはわたしの衣にはねかかり、わたしの装いをすっかり汚してしまった」（イザヤ書63章3節）。侮蔑、憎悪、激しい憤り、この3つをこれほどまでに表現した言葉を思い浮かべることはおそらく不可能だろう。もしあなたが神に憐れんでくれと叫んだとしても、神はあなたの悲惨な境遇を憐れむどころか、少しも顧みず、好意を示すこともないだろう。そして、あなたが全能の重みに耐えられないことを知っていても、神はそれを顧みず、容赦なくその足であなたを打ち砕く。神はあなたの血を踏みつぶし、ご自分の衣に飛び散らせ、神のすべての衣に染みを作る。神はあなたを憎むだけでなく、軽蔑の極みを尽くすだろう。あなたがたにふさわしい場所はなく、神の足の下で道の泥のように踏み固められるだけだ。

2. あなた方が直面している悲惨は、神が意図的に与えるもので、**エホバ（※2のとおり）**の怒りが如何なるものであるかを示すためである。神は、御自分の愛がいかに優れたものであるか、またご自分の怒りがいかに恐ろしいものであるかを天使や人間に示すことを心に留めておられる。時に地上の王たちは、自分たちを挑発する者たちに極端な罰を下すことによって、その怒りがいかに恐ろしいものであるかを示そうとすることがある。**カルデア帝国の強大で高慢な君主ネブカデネザルは、シャドラク、メシエク、アベデ・ネゴに激怒したとき、自分の怒りを示そうとした。そして、燃える火の炉を以前の7倍に熱するよう命じた。間違いなく、それは人間の技術がなしうる最大限の激しさまで高められていた（※ダニエル書3章での出来事）**。しかし、偉大なる神もまた、ご自分の敵が極みまで苦しむ中で怒りを示し、威厳と強大な力を誇示することをいとわない。「それでいて、もし神が、御怒りを示してご自分の力を知らせようと望んでおられたのに、滅ぼされるはずの怒りの器を、豊かな寛容をもって耐え忍ばれたとすれば、どうですか」（ローマ9:22）。そして、これが神の計画であり、神が決定したことであることを見て、**エホバ（※2のとおり）**の主権的な怒り、激怒、獐猛さがどれほど恐ろしいものであるかを示すためにも、神はそれを実行に移すだろう。目撃者にとって恐ろしいことが成し遂げられ、実現する。偉大で怒れる神が立ち上がり、哀れな罪人に対してそのひどい復讐を実行し、哀れな者がその憤りの無限の重さと力に実際に苦しんでいるとき、神は全宇宙に呼びかけて、恐ろしい威厳と強大な力があることを見させるであろう。「胸を打って嘆け。美しい畑、実り豊

かなぶどうの木のために。茨やおどろが生い茂る、わたしの民の土地のために。そして、楽しい家々のすべて、おごる都のために。なぜなら、宮殿は見捨てられ、町の騒ぎもさびれ、オフエルと見張りの塔は、いつまでも荒れ野に、野ろばの喜ぶところ、群れの牧場になるからだ」（イザヤ 32:12-14）。

全能の神の無限の力、威厳、恐ろしさは、言いようもないほど酷い苦しみの中であなたがたの上に示されるだろう。あなたがたは、聖なる天使たちと小羊の前で苦しめられるであろう。あなたがたの苦しみがこのような状態にあるとき、天の栄光ある住民たちは出て行って、恐ろしい光景を目にするだろう。そして、彼らは全能者の激しい怒りが如何なるものであるかを見ることになる。そして、それを見たとき、彼らはひれ伏して、その偉大な力と威厳を崇めるだろう。「新月の祭りごとに、安息日ごとに、すべての肉なる者がわたしの前に来て礼拝する。——主は言われる——彼らは出て行って、わたしに背いた者たちの屍を見る。そのうじ虫は死なず、その火も消えず、それはすべての肉なる者の嫌悪の的となる」（イザヤ 66:23-24）。

それは永遠の怒りである。全能の神の激しい怒りに一瞬でも苦しむのは恐ろしいことだが、あなたは永遠に苦しまなければならない。この極度に恐ろしい惨めさには終わりが無い。前方に目を向けると、あなたの目の前には、長く永遠で無限の時間が見えるだろう。それはあなたの思考を飲み込み、あなたの魂を驚かせる。そして、あなたは解放や終わり、減免、安息を得ることに絶望する。あなたは、この全能で情け容赦のない復讐との闘いに数えきれないくらい長い年月を使い切らなければならないことを確かに知ることになる。このような形で実際に時を過ごした時、あなたは、まだ残されたものがあることを知ることになる。そういうわけで、あなたの罰はまさに無限となる。ああ、このような状況に置かれた魂の状態を誰が表現できるだろう！私たちがそれについて語るができるのは、非常にはかなく、かすかな描写に過ぎない。言葉では言い表せないし、想像もできない。「神の怒りの力を誰が知っているだろうか」とあるとおりだ。

この大なる怒りと無限の不幸の危険に日々刻々とさらされている人々の状態は、なんと恐ろしいことだろう！しかしこれは、この聴衆の中にいる、すべての新生していない魂の惨めな実情である。どんなに道徳的で厳格でまじめで信心深い人であってもだ。老若男女を問わず、考えてみてほしい！今、この説教を聞いている聴衆の中には、永遠にこの不幸の対象となる者が大勢いると思える理由がある。その人たちが誰なのか、どの席に座っているのか、今どんなことを考えているのか、私たちは知らない。その人たちは今、安らいでいて、さしたる混乱もなく、この話をすべて聞いているのだろう。そして今、自分はそのような人間ではないと自惚れ、自分は逃げおおせると自分に言い聞かせているのかもしれない。もし、この不幸の対象となる人が、全ての聴衆の中にたった一人しかいないと知ったら、それはどんなに恐ろしいことだろう！もし、それが誰なのかわかっていたら、そのような人物を見るのはどんなに恐ろしい光景だろう！聴衆は皆、彼のためにどんなに嘆き悲しむことだろう！なんということだ！一人ではないなら、地獄でこの説教を覚えているのは何人だろうか。そして、今現在いる何人かが、今年が終わる前であっても、ごく短期間のうちに地獄に堕ちてはならないとしたら、それは不思議なことである。今、この集会所のいくつかの席に健康な人たちが静かに安心して座っているが、その人たちが明日の朝までそこにいても不思議ではない。それはすぐに、そしておそらく突然、あなたが

たの多くに訪れるだろう。あなたは、自分がすでに地獄にいるのではないかと疑う理由がある。あなた以上に地獄に値する人はなく、以前はあなたと同じように生きていたと思われる人たち、あなたが見たことのある人たち、知っている人たちがそうであることは間違いない。彼らは極度の悲惨と完全な絶望の中で泣き叫んでいる。しかし、ここにいるあなたがたは、生ける者の国、神の家において、救いを得る機会がある。哀れで絶望的な魂は、今あなたが享受しているような一時のチャンスを、何としても手に入れたいと思わないだろうか！

今、あなたには特別なチャンスがある。それは、キリストが憐れみの扉を大きく開き、貧しい罪人たちに大声で呼びかけ、叫んでおられる日だ。多くの人が主に群がり、神の国へと押し寄せる日。東から、西から、北から、南から、毎日多くの人々がやって来ている。ごく最近まで、あなたがたと同じような悲惨な状態にあった多くの人々が、今は幸せな状態にあり、自分を愛し、ご自身の血によって罪を洗い流してくださった方への愛で心が満たされ、神の栄光を待ち望んで喜んでいる。このような日に取り残されることは、どんなに恐ろしいことだろう！他の多くの人たちが祝宴を開いているのを目の当たりにしながら、自分は嘆き、滅びようとしている！あなたが心の悲しみで嘆き、心のつらさで吠えなければならぬのに、多くの人々が心から喜び歌っているのを見る！そのような状態で、どうして片時も休むことができようか。あなたがたの魂は、日ごとにキリストのもとに集まっていくサフィールドの人々の魂と同じくらい尊いのではないだろうか？

この世に長く生きながら、今日まで新生していない者が、ここに大勢いるではないか。また、イスラエルから離れた異邦人も同じだ。彼らは生まれてから何もしていないが、御怒りの日に備えて神の怒りを蓄えているのではないだろうか。諸君、諸君の場合は、特に危険である。あなたの罪の意識と心の固さは非常に大きい。神による憐れみの時代、驚くほど素晴らしい時代にあって、あなたがたの年代の人たちが当たり前のように無視され、置き去りにされていることがわからないのですか。あなたがたは、自分のことをよく考え、眠りから目覚める必要があった。あなたは神の激しく無限の怒りに耐えることはできない。そして、若い男性、若い女性の皆さん。あなたたちが今享受しているこの貴重な時期をないがしろにするのですか。同年代の多くの人々が、若さゆえの虚栄心を捨て、キリストのもとに集まってきているというのに。しかし、もしあなたがそれを怠るなら、青春時代の貴重な日々をすべて罪のために過ごし、今、盲目と硬直の中で恐ろしい峠を迎えている人々と同じように、あなたにもすぐに訪れることになるだろう。そして、改心していない子供たちよ、あなたたちは地獄に落ちて、毎日毎晩、あなたたちに怒っておられる神の恐ろしい怒りを背負わされることを知らないのか。この国の多くの子供たちが改心して、王の王の聖なる幸せな子供になっているのに、悪魔の子供で満足するのか。

そして、まだキリストのもとを離れ、地獄の穴の上にとぶら下がっている者は皆、老若男女、中年、若者、幼子を問わず、今こそ神の言葉と摂理の大いなる呼びかけに耳を傾けよ。この主を受け入れることが可能な年は、ある者にとっては大きな恩恵の日であるが、他の者にとっては間違いなく驚くべき復讐の日であろう。このような日に、自分の魂をないがしろにすれば、人の心は硬くなり、その罪は急速に重くなる。そのような人々が、心の硬さと盲目に陥る危険性がこれほど高かったことはない。神は今、選びの民をこの地のあらゆる

る場所に急いで集めようとしておられるようである。おそらく、これから救われる成人の大部分は、今すぐにも集められ、使徒たちの時代にユダヤ人に聖霊が大いなる注ぎがあったときのようになるであろう。選びが実施され、残りは盲目となる。もしあなたがそうなら、神の御霊が注がれるそのような季節を見ることができる今日という日を、そしてあなたが生まれた日を、あなたは永遠に呪うだろう。バプテスマのヨハネの時代もそうであったように、良い実を結ばない木はすべて切り倒され、火の中に投げ込まれる。

それゆえ、キリストから離れている者は皆、今こそ目を覚まして、来るべき御怒りから逃れよ。全能の神の怒りは、今、間違いなく、この聴衆の大部分に臨んでいる。ソドムから逃げ去りなさい。「急いで、命懸けで逃げ出しなさい。後を見てはならない。焼き尽くされないように、山に逃げなさい。」（創世記 19:17）

英語版掲載サイト：Sinners in the Hands of an Angry God by Jonathan Edwards ([blueletterbible.org](http://blueletterbible.org))